

携帯性に優れる超音波診断装置が 在宅医療を強力にサポート

医療機関、高齢者施設、在宅ケア&介護サービス連携した地域医療・在宅医療の現場で、超音波診断装置ファゾン エムが活躍しています。

導入事例紹介

User's Voice

医療法人社団 優和会 松永医院 (千葉県南房総市千倉)
院長 松永平太先生



POINT

- 診察室だけでなく、往診でも使える携帯性
- 確定診断につながる、高い画質レベル
- 高齢化社会の中での高いポテンシャル



松永医院外観。診察時間前から多くの患者さんが訪れる。

高齢者にやさしい 地域医療の確立を目指して

房総半島南部に位置する南房総市千倉町。人口は約13,000人。豊かな自然と温暖な気候に恵まれた過ごしやすい土地ではあるが、近年の少子化の影響もあり、急速な高齢化が進んでいる。この地に根をはり「高齢者のための医療システムの確立」に全身全霊で取り組みているのが、松永医院 松永平太院長である。松永医院は、先代にあたるお父様から受け継いだもの。院長の千倉への愛着は強い。

「千倉は私が幼少時代を過ごした場所。土地の人は、私の家族も同じです」と院長。千倉が抱える問題点のひとつ、「地域社会の高齢化」について尋ねると、

「高齢者の方々の大半は、在宅での介護・医療を望んでいます。住み慣れた家で愛する家族とともに、晩年を過ごしたいと思うのは当然のことですよね。しかしながら、そういった願いを叶えるための制度・

システムの整備がなされていない現状があります。これは家族だけの問題ではなく、社会的な問題、医療的な問題です」院長はさらに続けた。

「そういった不足しているところを千倉の町に整備することが、開業医である私の使命・責務であろうと考え、「在宅医療」を一つのキーワードとして取り組み、2001年、院長は医療法人「優和会」を設立。診療所にあたる「松永医院」を始め、居宅介護支援事業所や老人保健施設「夢くらぶ」、デイサービスセンター「あそぼ」、認知症対応施設「おかげさま」など、高齢者のための施設を数多くオープンさせ、運営を行っている。

「携帯性」が、ファゾンエム 導入の大きな決め手

院長の一日は多忙を極める。朝8時から12時まで松永医院で診察を行い、簡単に昼食をすませ在宅診療に向かう。その

優和会グループ

医療法人 優和会

- 診療所 (松永医院)
- 居宅介護支援事業所
- 老人保健施設「夢くらぶ」
- デイサービスセンター「あそぼ」

社会福祉法人 おかげさま

- グループホーム「夢ほーむ」
- 認知症対応型小規模デイサービス「おかげさま」

会社法人 ハイビース

- 訪問看護ステーション「そよかせ」
- ヘルパーステーション「そよかせ」

後各施設を回り、午後4時からの診察のため、再び松永医院へと戻る。松永医院を拠点に、移動を繰り返す日々が続く。

「超音波診断装置は、ファゾンエムが3台目。導入の決め手となったのは、その携帯性でした。本体と切り離して持ち運べるスキヤンエンジンは、非常に軽く機能面でも優れていましたので、いろいろな場所を移動して診療を行う私にはうってつけだったといえますね」

現在では松永医院内にファゾンエム本体を置き、診療に活用。往診時には、スキヤンエンジンとともに外出する。外で得たデータは医院に戻り、本体にデータ転送。その後の診療に活かしている。

「ファゾンエムがあれば、在宅や施設でも診療所の検査室と同じクオリティの画像を見ることができず。また、大動脈瘤



松永医院・診察室にて

「内臓から大動脈まで全部診ることにしている」と松永院長。「治療・療養方針を決定する重要な情報を早期に得られるようになった」と評価している。

や結石、胆石など、いままでの装置では見づからなかったものが見つかるとなりました。携帯性はもちろん、ファズーンエムの画像面にも満足していますよ」院長は話を続けた。

「超音波診断装置は、腹部検査、心臓検査など臓器によって違うものだと思うんですが、最近は一体型超音波検査になって、頸動脈の診断も可能です。さらに後から機能をアップすることができ。つまり、ファズーンエムは携帯性・画像診断性能に加え、進化能力も高い超音波診断装置である、ということがいえます。その点も高く評価しています。もともと、私自身も進化しなければ、使いこなすことはできないわけですがね」と院長は笑顔を見せた。

医師・患者双方にメリットをもたらしたファズーンエム

ファズーンエム導入は、ドクターのみならず患者側にもメリットをもたらした。

「医院外での超音波検査を気軽に行えるようになったことは、患者さんにとっても大きなメリットだと思います。以前は箱形の重い機械でしたので、常に持ち歩くことはできませんでした。今は常に超音波診断装置が手元にありますから、ちよつと調子がすぐれないから診てみようか、という気軽さで検査が行えます。実際に具合が悪いというので診てみたら、尿管閉塞だったというケースもありました。どんな病気で早期発見が第一。超音波検査は確定



患者さんのご自宅にて

ご家族とともに在宅ケアを続ける患者さんを往診。スキャンエンジンは、在宅診療での確定診断に欠かせないツールとなっている。

診断に結びつけることができますから、有効性は非常に高いと感じています。患者さんとの信頼関係を、さらに強めることができましたよ」

超高齢化社会ともいわれる状況を背景に、在宅医療を行おうという開業医が増えています。

「超音波検査は痛みの少ない検査であり、なおかつ確定診断に導いてくれることを考えると、ファズーンエムのような携帯性に優れた超音波診断装置は、社会の中で活躍する大きなポテンシャルを持っていると感じています。技術の進歩をもつと医療に活かすべきでしょう」

命が輝く社会へ

「命を助けるだけでなく、命を元気にして、さらに命を輝かせる。そこまでケアすることが、医療であり、福祉であり、介護であると私は考えています」

院長は一医師を超えた大きなビジョンを語ってくれた。

「いのちに優しくて心豊かな社会をつくるためには、『行政・教育・医療機関』が一体となることが大切です。今後は、各機関への働きかけを積極的に行っていくつもりです」

最後に、「千倉を世界一元気に長生きできる町にしたいんです」と力強く語った松永院長。

その視線は、明るい未来へと向けられている。



特別介護老人ホーム「花の里」にて
嘱託医として週1度の往診。超音波検査がベッドサイドで気軽に行えるようになった。



デイサービスセンター「あそぼ」



「あそぼ」の中でカラオケを楽しむ人たちと松永院長。家族のように暮われ信頼されていることがうかがえる。



在宅支援施設として2006年5月にオープンした「夢くらぶ(介護老人保健施設)」。



FAZONE M

診察室での検査には「スーパーカート」、ベッドサイドや往診時には「スキャンエンジン」の、二通りの使い方ができる超音波診断装置です。